

序

若い先生達と話をするたびに聞く「腎臓内科はわかりにくい・むずかしい」という言葉は、それを専門とするわたしにとってはいつ聞いても残念でならない会話でした。

そもそも「腎臓」というこの言葉だけで示される診療名称も個人的にはあまりいい印象をもっていませんでした。どこか狭い、そこだけの印象をもつからです。

わたしたち腎臓内科の専門医というのは、腎臓を「窓」として全身疾患を診断するという、まさに「総合内科医」そのものではないかと思っています。血液疾患・膠原病・心血管障害・神経疾患から、はたまた皮膚症状や眼症状など、多くの診療科にまたがるこの腎臓病をもっとわかりやすく教えることができたなら本当におもしろい内容ばかりなのに、とかねがね思っていました。

こうした思いから今回羊土社から本書を上梓することができました。本書は腎臓を専門としない他科の先生方、研修医、また開業なさっている先生方にも、わかりやすい解説をより端的に示すよう努力いたしました。医学部の学生さんが初めて腎障害患者に接するときにも役立つでしょう。

本書は

Part 1 これをみたら腎障害を疑おう

Part 2 腎障害患者を受け持ったら

Part 3 透析患者を受け持ったら

の大きく3セクションに分け、まずPart 1では腎障害をどの症状や所見から疑うか、どのように診断するのかを述べています。特に、腎以外の全身症状からの診断も取り入れました。Part 2と3は治療と管理について、一般の腎障害患者（非透析患者）と透析患者に分けて解説しています。体液管理・栄養管理などの科でも重要となります。透析患者のことも標準的なことを知っておくだけで対処に自信がもてることでしょう。

2014年2月

湘南鎌倉総合病院
小林修三